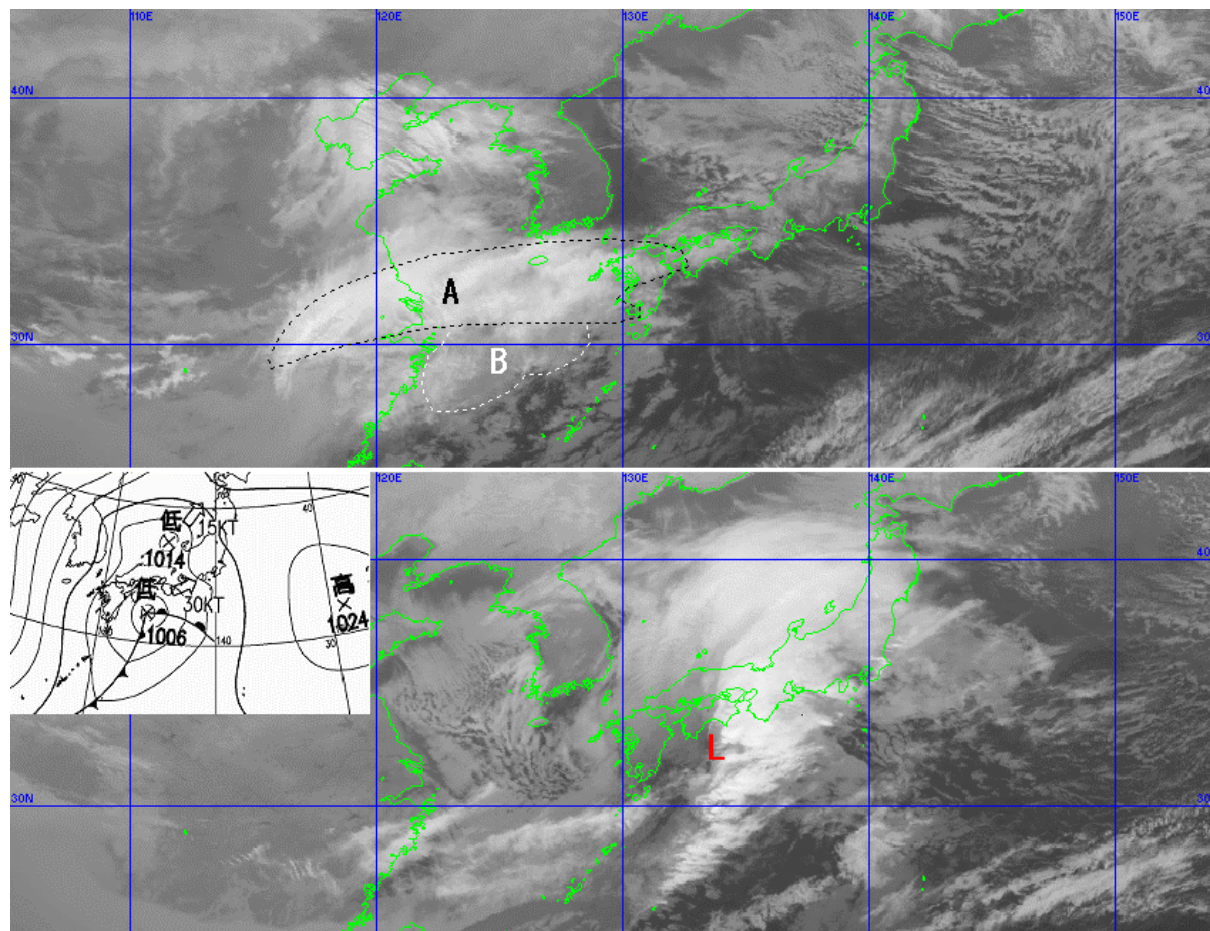


今月の気象衛星画像 (2004年12月)



上段 2004年12月30日15時の赤外画像
下段 2004年12月31日09時の赤外画像、地上天気図

南岸を通過した低気圧による大みそかの雪

12月31日は関東地方を中心に雪となり、年越しのイベントや交通機関に大きな影響がでた。この雪は東シナ海で発生した低気圧が急速に発達しながら日本の南岸を進んだ影響によるものである。

写真上段は低気圧が発生する直前の、30日15時の赤外画像である。東シナ海には白く写る上層雲域Aと灰色に写る下層雲域Bが見られるが、まだ組織化していない。

写真下段は31日09時の赤外画像である。前日東シナ海にあった雲域は東進しながらまとまりを見せ、近畿地方付近に達した。地上天気図では四国沖(画像中L印)に低気圧を解析しており、東北東に30ノットで進んでいる。この低気圧に対応する雲域は、日本海にかけて上層雲が北に盛り上がり、濃白色の厚い雲域となっており、低気圧が発達していることを示唆している。雲画像からは雨と雪の判別はできないが、低気圧の中心に近い潮岬では雨、やや離れた名古屋では雪が観測されている。低気圧はその後も発達しながら伊豆諸島北部を通過し、都心に21年ぶりの大みそかの降雪をもたらした。

(気象衛星センター)